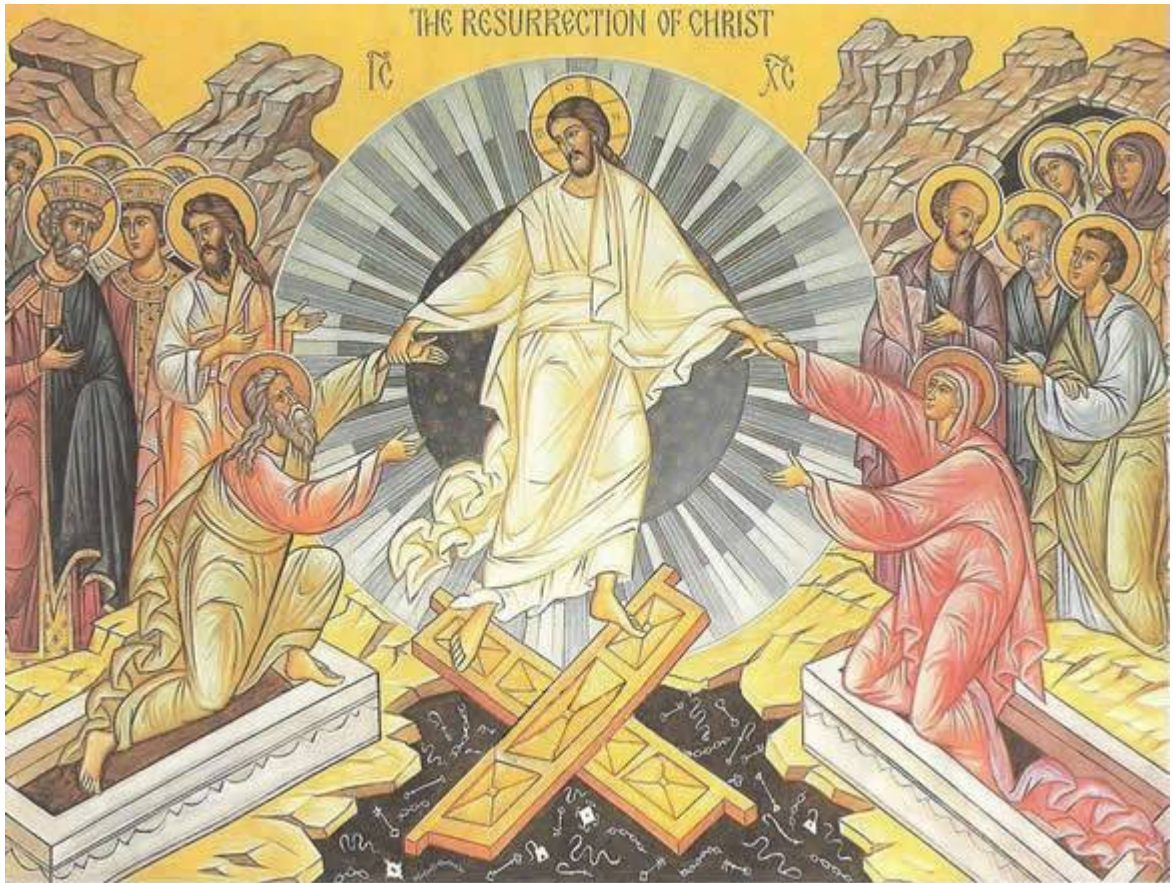


聖大パスハ聖体礼儀代式 単音聖歌譜



釧路ハリストス正教会

注意 譜面中、五線譜上に ||●|| とある部分は、その音程を保ちながら、その部分の歌詞（祈祷文）が持つ言葉の自然なリズムに則って歌うことを意味しています。ただ早く歌ってしまったり、棒読みになってしまったりしないよう、気をつけてください。この聖歌譜はそのために、歌詞の意味をとることが容易になるよう漢字を多く用いて作成しています。

2021年 4月19日

釧路ハリストス正教会

管轄司祭ステファン内田圭一

代禱) ^{しゅ}主 イイスス・ハリストス、^{かみ こ}神の子よ、^{なんぢ しじょう}爾が至淨の母と^{はは しよせいじん}諸聖人との^{きとう より}祈禱に^{われら}因て、我等

^{あわれ たま}を憐み給え、

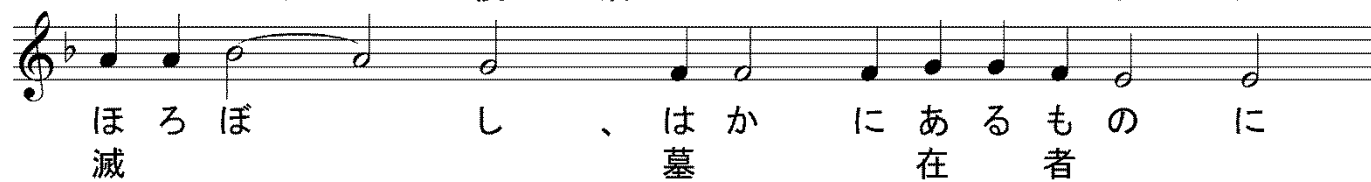


代禱) ^しハリストス死より^{ふくかつ}復活し、^{し もつ}死を以て死を^{ほろぼ}滅し、^{はか あもの いのち たま}墓に在る者に生命を賜えり。

ハリストス死より^{ふくかつ}復活し、^{し もつ}死を以て死を^{ほろぼ}滅し、^{はか あもの いのち たま}墓に在る者に生命を賜えり。

ハリストス死より^{ふくかつ}復活し、^{し もつ}死を以て死を^{ほろぼ}滅し、^{はか あもの いのち たま}墓に在る者に生命を賜えり。

【 パスハの讃詞 】



ほろぼし、はかにあるものに
滅墓在者

いのちをたまえり。
生命賜

代禱) ^{かみ お}神は興き、^{そのあだ ち}其仇は散るべし、^{かれ にく もの そのかんばせ}彼を惡む者は其顔より逃ぐべし。^に

ハリストスしよりふくかつし、しをもつてしを
死復活死以死

ほろぼし、はかにあるものに
滅墓在者

いのちをたまえり。
生命賜

代禱) ^{けむり ち}煙の散るが如く、^{ごと なんぢかれら ち たま}爾彼等を散らし給え。

ハリストスしよりふくかつし、しをもつてしを
死復活死以死

ほろぼし、はかにあるものに
滅墓在者

いのちをたまえり。
生命賜

代禱) ^{ろう ひ よ と}蠟が火に因りて融くるが如く、^{ごと か あくにんら かみ かんばせ よ ほろ}斯く惡人等は神の顔に因りて亡び、^{ただぎじんら たの}惟義人等は樂しむべし。

ハリストスしよりふくかつし、しをもつてしを
死復活死以死

ほろぼし、はかにあるものに
滅墓在者

いのちをたまえり。
生命賜

代禱) ^{しゅ こ ひ つく}主は此の日を作れり、^{われらこれ もつ よろこ たの}我等之を以て歡び樂しまん。

ハリストス死より復活し、しをもつてしを
死復活死以死

ほろぼし、はかにあるものに
滅墓在者

いのちをたまえり。
生命賜

代禱) ^{こうえい ちち こ せいしん き いま いつ よよ}光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世に、アミン。

ハリストス死より復活し、しをもつてしを
死復活死以死

ほろぼし、はかにあるものに
滅墓在者

いのちをたまえり。
生命賜

代禱) ^{し ふくかつ し もつ し ほろぼ}ハリストス死より復活し、死を以て死を滅し、

はかにあるものにいのちをたま
墓在者生命賜

えり。

【 大聯禱 】

代禱) ^{われらあんわ} 我等安和^{しゅ いの}にして主に禱らん、



代禱) ^{うえ} 上より降る安和と我等が^{たましい すくい} 靈の救の爲に主に禱らん、



代禱) ^{ぜんせかい あんわ} 全世界の安和、^{かみ せい} 神の聖なる^{しよきょうかい} 諸教會の^{けんりつ} 堅立、及び衆人^{およ しゅうじん}の^{ごういつ} 合一の爲に主に禱らん、



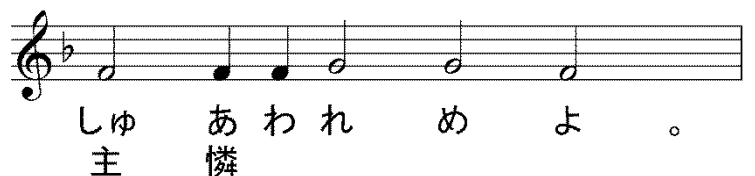
代禱) ^{こ せいどう} 此の聖堂、及び信と^{およ しん} 慎と^{つつしみ} 神を畏る^{かみ} 心とを以て^{おそ} 此に來る^{こころ} 者の爲に主に禱らん、



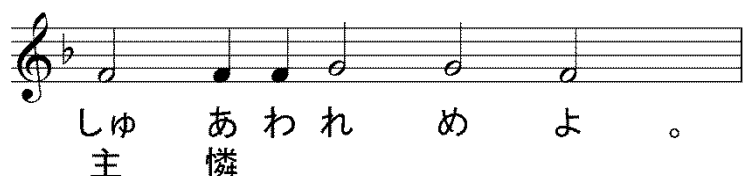
代禱) ^{きょうかい} 教會を^{つかさど} 司る^{そんき} 尊貴なる我等の^{われら} 全日本^{ぜんにつぼん}の^{ふしゅきょう} 府主教^{およ} ダニイル、^{そんき} 尊貴なる我等の^{われら} 仙台^{せんだい}の

^{だいしゅきょう} 大主教^{セラフィム} セラフィム、^{しさい} 司祭の^{そんびん} 尊品、^よ ハリストスに^{ほさいしよく} 因る^{ことごと} 輔祭職、^{きょうしゅう} 悉くの^{およ} 教衆、及び

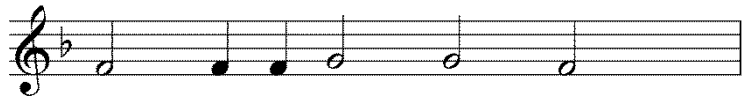
^{しゅうじん} 衆人の爲に主に禱らん、



代禱) ^{わがくに} 我國の^{てんのう} 天皇、及び國を^{およ} 司る^{つかさど} 者の爲に主に禱らん、

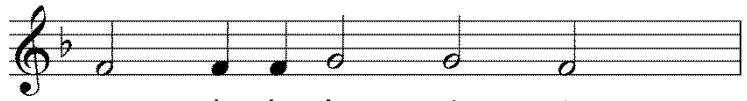


代禱) ^こ 此の都邑と^{およ} 凡の^{まち} 都邑と^{ちほう} 地方の爲、及び信を以て^{およ} 此の中に^{しん} 居る^{もつ} 者の爲に主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。
主 憐

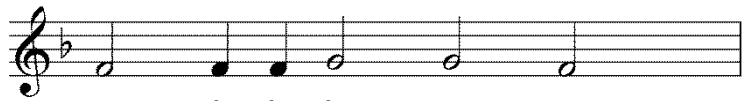
代禱) 気候順和、五穀豊穰、天下泰平の爲に主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。
主 憐

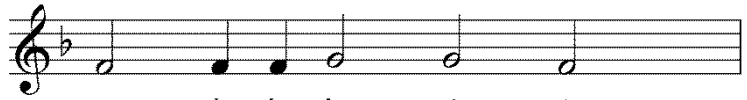
代禱) 航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、擄となりし者、及び

かれら 彼等の救の爲に主に禱らん、



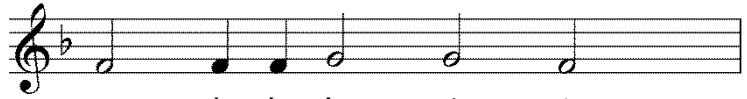
しゅ あわれ め よ 。
主 憐

代禱) 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。
主 憐

代禱) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

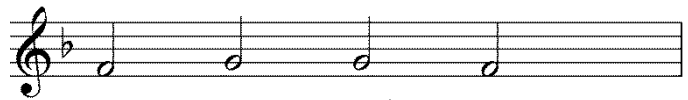


しゅ あわれ め よ 。
主 憐

代禱) 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

生命を以て、ハリストス神に委託せん、



しゅ な ん ぢ に 。
主 爾

代禱) 主イイスス・ハリストス、神の子よ、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に因て、我等

を憐み給え、



【 第一アンティフォン 第102聖詠 】

ぜんちよ、かみによろこびてよべ。
全地 神 歡 呼

きゆうせ いしゅよ、しょうしんぢよのきとうによりて
救 世 主 生 神女 祈 禱 因

われらをすくいたまえ。
我 等 救 給

ぜんちよ、かみによろこびてよび、その名のこ光
全地 神 歡 呼 其 名 光

うえいをうたい、こうえいとさんびとをかれに
榮 歌 光 榮 讚 美 彼

きせよ。
歸

きゆうせ いしゅよ、しょうしんぢよのきとうによりて
救 世 主 生 神女 祈 禱 因

われらをすくいたまえ。
我 等 救 給

かみにいうべし、なんぢはそのぎょうじにおいて
神 謂 爾 其 行 事 於

なんぞおそるべき、なんぢがちからのおおきによ
何 畏 爾 力 多 由



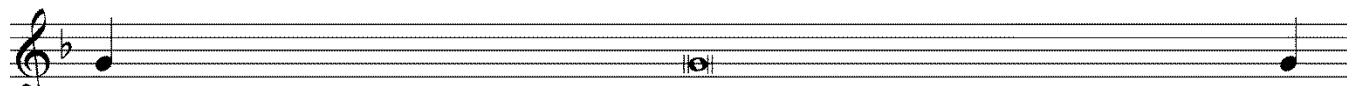
りてなんぢのてきはなんぢにくだらん。
爾 敵 爾 降



きゆうせ いしゆよ、しょうしんぢよのきとうによりて
救 世 主 生 神 女 祈 禱 因



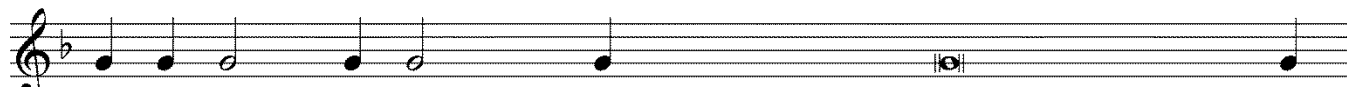
われらをすくいたまえ。
我 等 救 給



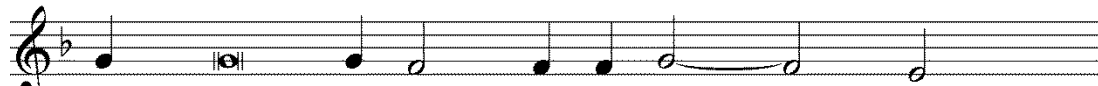
しじょうしゃよ、ねがわくはぜんちはなんぢにこうは
至 上 者 願 全 地 爾 叩 拜



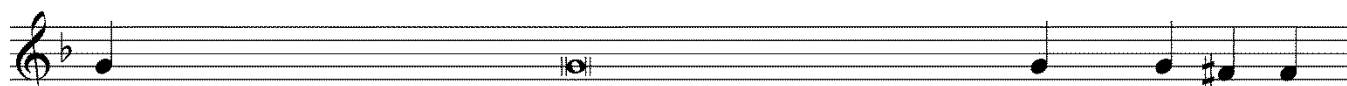
いし、なんぢをうたい、なんぢないうたわん。
爾 歌 爾 の 名 に 歌 わ ん。



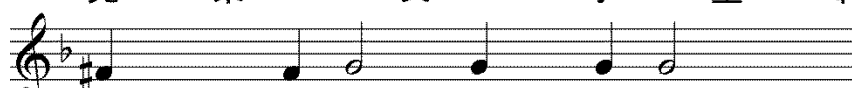
きゆうせ いしゆよ、しょうしんぢよのきとうによりて
救 世 主 生 神 女 祈 禱 因



われらをすくいたまえ。
我 等 救 給



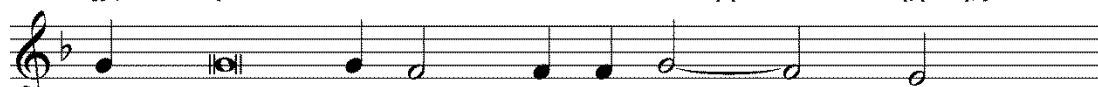
こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
光 榮 父 子 聖 神 歸 今



いつもよよに、アミン。
何 時 世 世



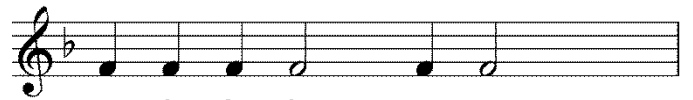
きゆうせ いしゆよ、しょうしんぢよのきとうによりて
救 世 主 生 神 女 祈 禱 因



われらをすくいたまえ。
我 等 救 給

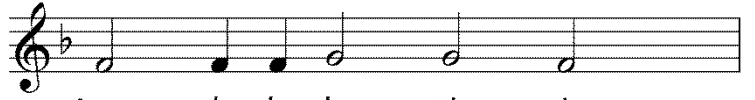
【 小聯禱 】

われらまたまたあんわ ^{しゅ いの}
代禱) 我等復又安和にして主に禱らん、



しゅあわれ めよ。
主 憐

代禱) ^{かみ なんぢ おんちやう もつ われら たす すく あわれ まも} 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

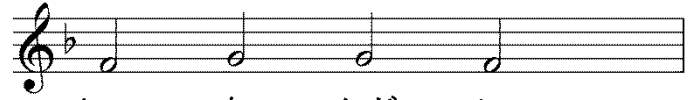


しゅ あわれ めよ。
主 憐

代禱) ^{しよせいしけつ いた さんび われら こうえい ぢよさい しょうしんぢよ えいていどうぢよ} 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

^{しよせいじん きおく われらおのれ みおよ たがい おのおの み もつ ならび ことごと われら} 諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

^{いのち もつ かみ いたく} 生命を以て、ハリストス神に委託せん、



しゅ なんぢ に。
主 爾

代禱) ^{しゅ かみ こ なんぢ しじやう はは しよせいじん きとう より われら} 主イイスス・ハリストス、神の子よ、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に因て、我等

^{あわれ たま} を憐み給え、

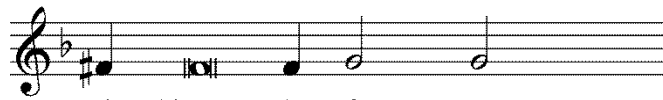


ア ミ ン。

【 第二アンティフォン 第145聖詠 】



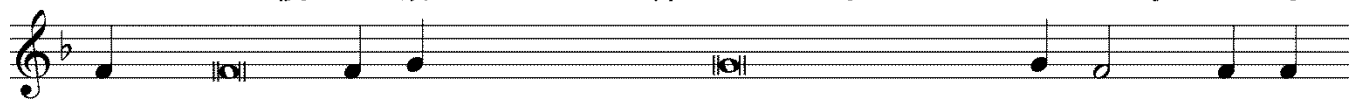
かみよ、われらをあわれみ、われらにふくを
神 我等 憐 我等 福



くだしたまえ、
降



しよりふくかつせしかみのこよ、われら
死 復 活 神 子 我 等



なんぢにアリルイヤをうとうものをすくいた給
爾 歌 者 救 給

まえ。

かみよ、われらをあわれみ、われらにふくを
神我等憐我等福

くだし、なんぢのかんばせをもつてわれらをてらし
降爾顔以我等照

たまえ。
給

しよりふくかつせしかみのこよ、われら等
死復活神子我等

なんぢにアイルイヤをうとうものをすくいた給
爾歌者救給

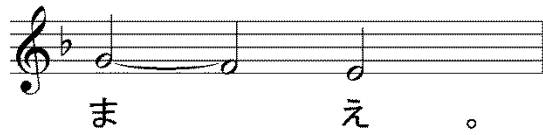
まえ。

なんぢのみちのちにしられ、なんぢのすくいのおん
爾途地知爾救萬

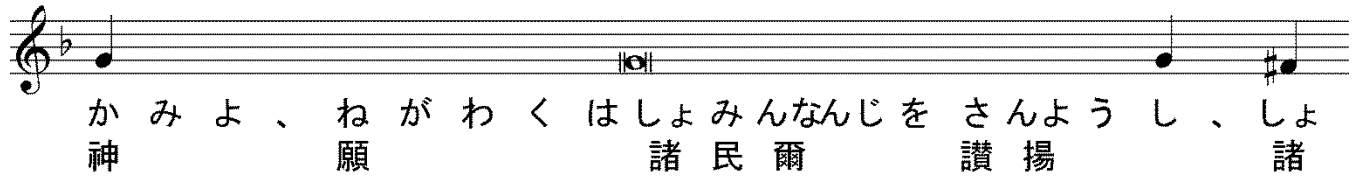
みんなのうちにしられんためなり。
民中知爲

しよりふくかつせしかみのこよ、われら等
死復活神子我等

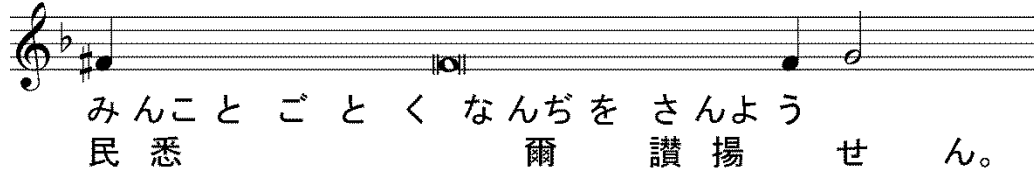
なんぢにアイルイヤをうとうものをすくいた給
爾歌者救給



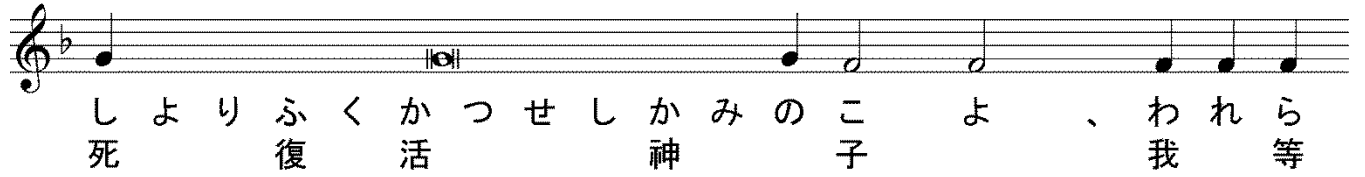
ま え。



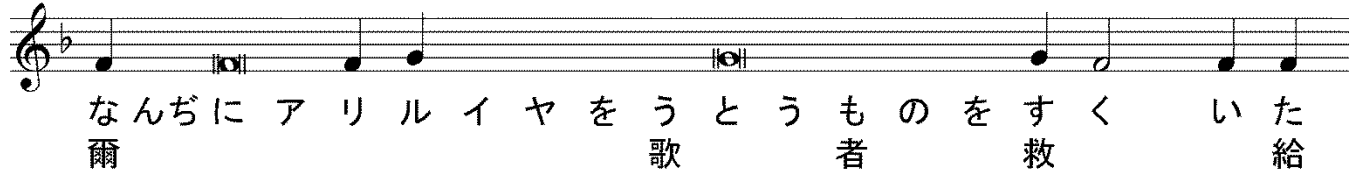
かみよ、ねがわくはしよみんなんじをさんようし、しよ
神 願 諸民爾 讃揚 諸



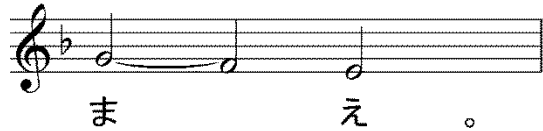
みんことごとくなんぢをさんよう
民悉 爾 讃揚 せん。



しよりふくかつせしかみのこよ、われら
死 復 活 神 子 我 等

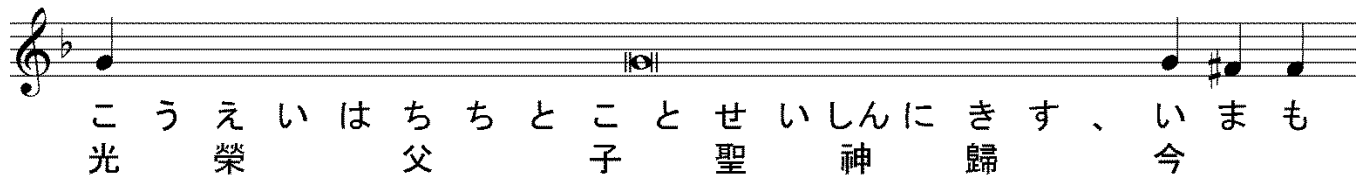


なんぢにアイルイヤをうとうものをすくいた給
爾 歌 者 救 給



ま え。

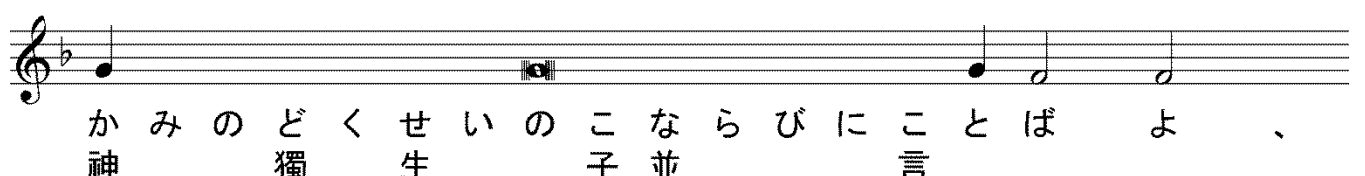
【 神の獨生の子 】



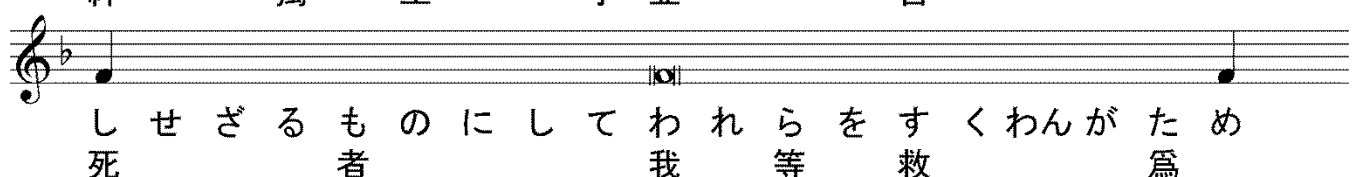
こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
光 榮 父 子 聖 神 歸 今



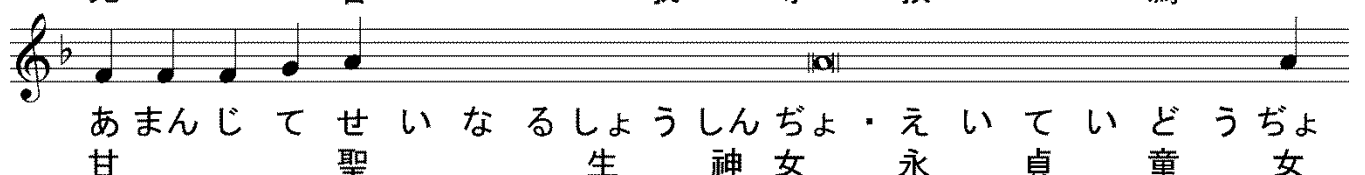
いつもよよに、アミン。
何時 世 世



かみのどくせいのこならびにことばよ、
神 獨 生 子 並 言



しせざるものにしてわれらをすくわんがため
死 者 我 等 救 爲



あまんじてせいなるしょうしんぢよ・えいていどうぢよ
甘 聖 生 神 女 永 貞 童 女

マ リ ヤ よ り み を と り 、 か み の せ い を か え
 身 取 神 性 易
 ず し て ひ と と な り じ ゅ う じ か に く ぎ う た れ 、
 人 十 字 架 釘
 し を も っ て し を ふ み や ぶ り し は り ス ト ス か み よ 、
 死 以 死 踏 破 神
 せ い さ ん しゃ の い つ と し て ち ち と せ い し ん と と
 聖 三 者 一 父 聖 神 共
 も に さ ん え い せ ら る る の し ゅ よ 、 わ れ ら を す 救
 讚 榮 主 我 等
 く い た ま え 。
 給

【 小 聯 禱 】

われらまたまたあんわ ^{しゅ いの}
 代禱) 我等復又安和にして主に禱らん、

しゅ あ わ れ め よ 、 しゅ あ わ れ め よ 。
 主 憐 主 憐

かみ ^{なんぢ} おんちょう ^{もつ} われら ^{たす} すく ^{あわれ} まも
 代禱) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

しせいしけつ ^{いた} ^{さんび} われら ^{こうえい} ^{ぢよさい} ^{しょうしんぢよ} ^{えいていどうぢよ}
 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

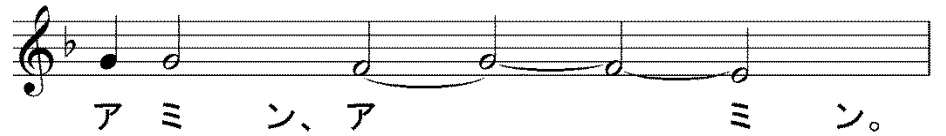
しよせいじん ^{きおく} われら ^{おのれ} ^{みおよ} ^{たがい} ^{おのおの} ^み ^{もつ} ^{ならび} ^{ことごと} ^{われら}
 諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

いのち ^{もつ} ^{かみ} ^{いたく}
 生命を以て、ハリストス神に委託せん、

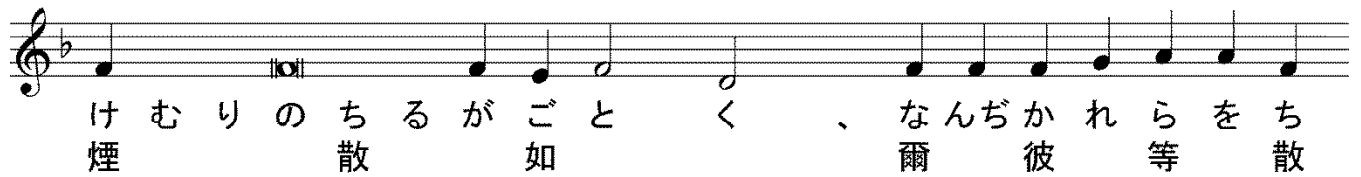
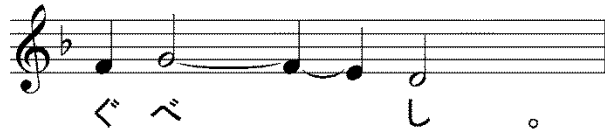
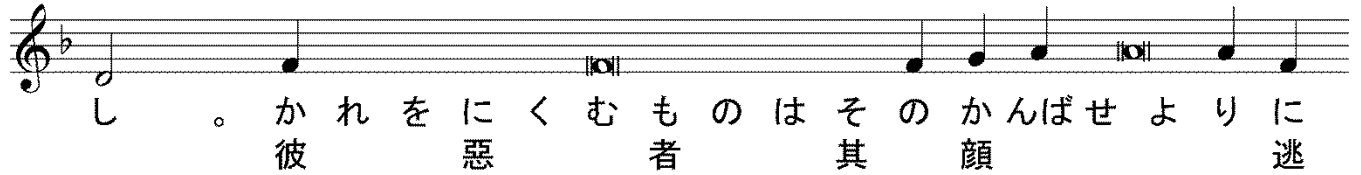
しゅ な ん ぢ に 、
 主 爾

しゅ ^{かみ} ^こ ^{なんぢ} ^{しじょう} ^{はは} ^{しよせいじん} ^{きとう} ^{より} ^{われら}
 代禱) 主イイスス・ハリストス、神の子よ、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に因て、我等

あわれ たま
を 憐み 給え、

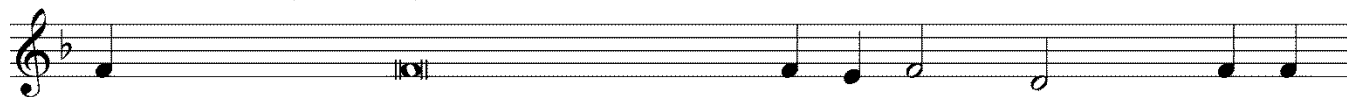


【 第三アンティフォン 】

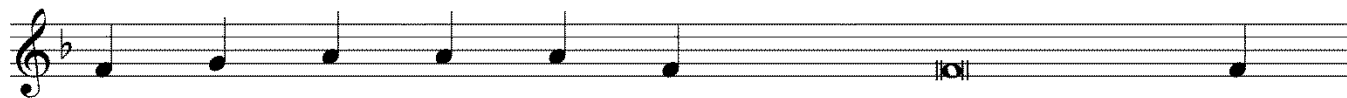




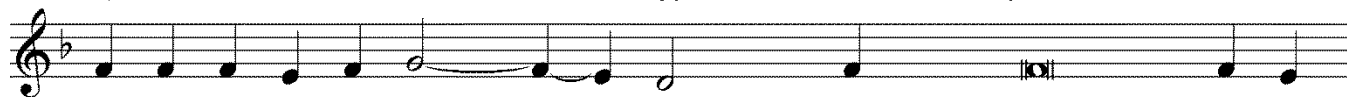
いのちをたまえり。
生 命 賜



ろうがひによりてとくるがごとく、かく
蠟 火 因 融 如 斯



あくにんらはかみのかんばんせ
悪 人 等 神 顔



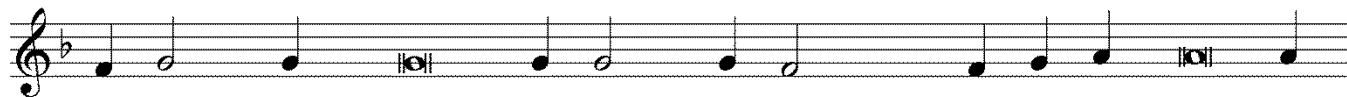
によりてほろび、ただぎじんらはたの
因 亡 惟 義 人 等 樂



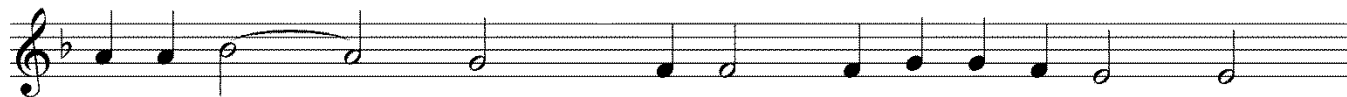
しみ、かみのまえによろこぶべ
神 前 欣



し。



ハリストスしよりふくかつし、しをもってしを
死 復 活 死 以 死



ほろぼし、はかにあるものに
滅 墓 在 者

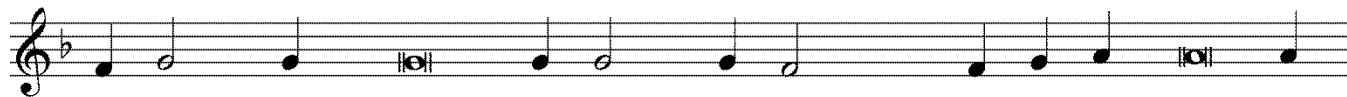


いのちをたまえり。
生 命 賜

代禱) 睿智、^{えいち つつし} 肅みて立て、^た イズライリの^{みなもと} 源より出づる者よ、^い 教會に於て^{もの} 主神を崇め讚め

よ、

【 パスハの讃詞 】



ハリストスしよりふくかつし、しをもってしを
死 復 活 死 以 死

ほろぼし、はかにあるものに
滅 墓 在 者

いのちをたまえり。
生 命 賜

【 應答歌 (イパコイ) 】

マリヤとともにありしおんなたちはよあけよ
借 在 女 等 黎 明

りはかにきたり、いしのうつされたるを
墓 来 石 移

みて、てんしよりきけり、えいえんの
見 天 使 聞 永 遠

ひかりにおるものをなんぞひとのごとく
光 居 者 何 人 如

ししゃのうちにたづぬる、ほうむりのころ
死 者 中 尋 斂 葬 衣

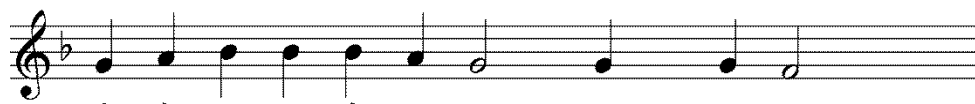
もをみて、いそぎてせかいにつたえよ、
見 急 世 界 傳

しゅはしをほろぼしてふくかつせり、じんる
主 死 滅 復 活 人 類

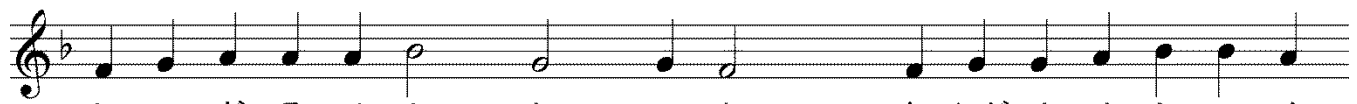
いをすくうかみのこなればなり。
救 神 子

【 コンダク 第8調 】

こうえいはちちとことせいしんにきす。い今
光 榮 父 子 聖 神 歸



まもいつもよよに、アミン。
何時世世



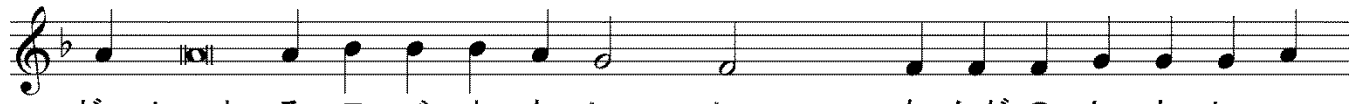
しせざるハリストスかみよ、なんぢははかにく降
死神爾墓降



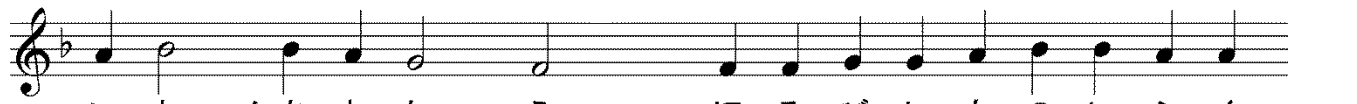
だれどもぢごくのちからをやぶり、か勝
地獄力破勝



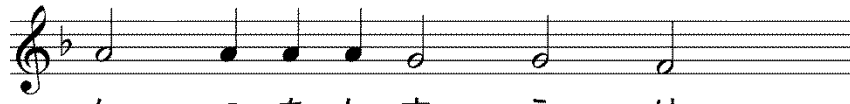
つものとしてふくかつせり、けいこう
者復活携香



ぢよによろこべよといひ、なんぢのしとにへ平
女慶言爾使徒平



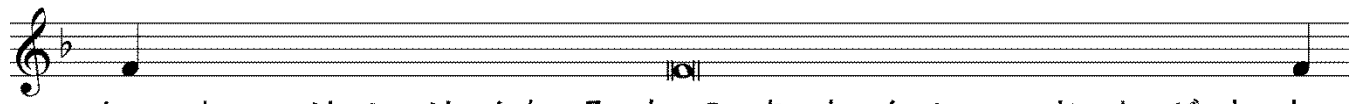
いあんをあたえ、ほろびしものにふく
安與亡者復



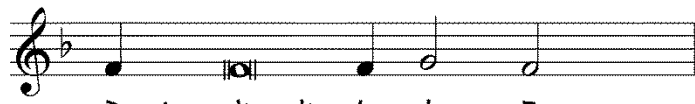
かつをたまえり。
活賜

【 聖三の歌に代えて 】

代禱) 主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に聴き給え、

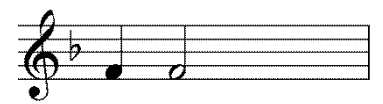


しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ
主敬虔者救及我



らにききたまえ。
等聴給

代禱) 世に、



アミン。

ハリストスに おいて せんを うけ し も の ハリスト スを
 於 洗 受 者
 きた り 、 ア リ ル イ ヤ 、 ハ リ ス ト ス に お い 於
 衣 於
 て せんを うけ し も の ハ リ ス ト ス を き た り 、
 洗 受 者 衣
 ア リ ル イ ヤ 、 ハ リ ス ト ス に お い て せんを う
 於 洗 受
 け し も の ハ リ ス ト ス を き た り 、 ア リ ル
 者 衣
 イ ヤ 、 こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん に き
 光 榮 父 子 聖 神 歸
 す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン 。 ハ リ ス ト
 今 何 時 世 世
 ス を き た り 、 ア リ ル イ ヤ 。 ハ リ ス ト ス に お 於
 衣 於
 い て せんを うけ し も の ハ リ ス ト ス を き た
 洗 受 者 衣
 り 、 ア リ ル イ ヤ 。

【 提綱 (プロキメン) 第8調 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) プロキメン、^{しゅ こ ひ つく} 主は此の日を作れり、^{われらこれ もつ よろこ たの} 我等之を以て 歡 び 樂 しまん、

しゅはこのひをつくれり、われらこれをもってよ
主 此 日 作 我 等 之 以 歡
ろこびたのしまん。
樂

誦經) ^{しゅ}主を^{さんえい}讚榮せよ、^{けだしかれ}蓋 ^{じんじ}彼は仁慈にして、^{そのあわれみ}其 ^{よよ}憐は世にあればなり、

しゅはこのひをつくれり、われらこれをもってよ
主 此 日 作 我 等 之 以 歡
ろこびたのしまん。
樂

誦經) ^{しゅ}主は^こ此の^ひ日を^{つく}作り、

われらこれをもってよろこびたのしまん。
我 等 之 以 歡 樂

【 使徒經 (アポストロス) 聖使徒行實 1 章 1～8 節 】

代禱) ^{えいち}睿智、

誦經) ^{せいしとこうじつ}聖使徒行實の^{よみ}讀、

代禱) ^{つつし}謹 ^きみて聽くべし、

誦經) ^{われだいいち}フェオフィルよ、^{しよ}我 ^{つく}第一の^{およ}書を作りて、^{はじ}凡 ^{おこな}そイイススの^{ところ}始めて ^{おし}行いし ^{ところ}所、^{おし}誨えし ^{ところ}所

^{しる}を録して、^{そのえら}其 ^{しと}選 ^{せいしん}びたる使徒に、^よ聖 ^{めい}神に^{くだ}因りて、^{てん}命を降して、^{のぼ}天に^ひ上りし^{いた}日に^{かれ}返れり。彼

^{くるしみ}は ^う苦 ^{のち}を受けし^{おお}後、^{かくしやう}多くの^{もつ}確 ^{かれら}證 ^{まえ}を以て、^{おのれ}彼等の前^いに ^{しめ}己 ^{しじゅうにち}の活くるを^{しめ}視し、^{しじゅうにち}四十日

^{あいだかれら}間 ^{あらわ}彼等に ^{かみ}現 ^{くに}れて、^{こと}神の^{かた}國の^{つい}事を ^{かれら}語り、^{あつ}遂に ^{これ}彼等 ^{めい}を集めて、^い之に ^い命じて ^い曰えり、^いイ

^{はな}エルサリムを ^{なんぢら}離れずして、^{われ}爾 ^き等が ^{ところ}我に ^ち聞きし ^{きよやく}所の、^{もの}父の ^ま許 ^{けだし}約せし ^い者を ^い待て。蓋 ^いイオア

^{みづ}ンは ^{もつ}水を ^{せん}以て ^{さづ}洗 ^{なんぢら}を授けたり、^{ひひさ}爾 ^{せいしん}等は ^よ日久 ^{せん}しからずして、^う聖 ^{ここ}神に ^{ここ}由りて ^{ここ}洗 ^{ここ}を受けん。是に

^{おい}於て ^{かれら}彼等 ^{あつま}集りて、^{かれ}彼に ^い問いて ^{しゅ}曰えり、^{なんぢ}主よ、^こ爾 ^{とき}は ^{おい}此の ^{くに}時に ^{おこ}於て ^{おこ}イスライリの ^{おこ}國を ^{おこ}興す

かれ これ い ちち おのれ けんない お ときおよ き なんぢら し ところ あら
か。彼は之に謂えり、父が己の権内に置きし時及び期は、爾等の知るべき所に非ず。

しか せいしん なんぢら のぞ とき なんぢらちから う ぜん
然れども聖神の爾等に臨まん時、爾等能力を受けて、イエルサリム、全イウデヤ、サマ

およ ち はて いた わ ため しょうしや な
リヤ、及び地の極に至るまで、我が爲に證者と爲らん。

(比較用 口語訳) テオピロよ、わたしは先に第一巻を著わして、イエスが行い、また教えはじめてから、お選びになった使徒たちに、聖霊によって命じたのち、天に上げられた日までのことを、ことごとくするした。イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のことを語られた。そして食事を共にしているとき、彼らにお命じになった、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」。さて、弟子たちが一緒に集まったとき、イエスに問うて言った、「主よ、イスラエルのために国を復興なさるのは、この時なのですか」。彼らに言われた、「時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

【 アリルイヤ 第4調 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

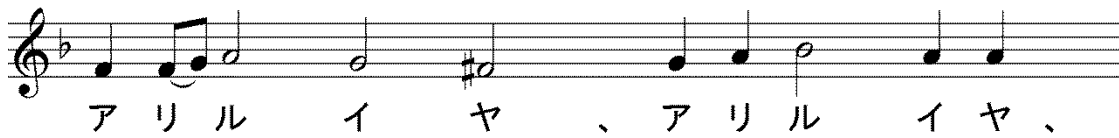
誦經) アリルイヤ、

アリル イ ヤ、アリル イ ヤ、
ア リル イ ヤ。

誦經) ^{なんぢお} 爾 ^{あわれみ} 起きて ^た 憐 をシオンに垂れん、

アリル イ ヤ、アリル イ ヤ、
ア リル イ ヤ。

誦經) ^{しゅ てん} 主は天より ^{ち かんが} 地を鑿みたり、



ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、



ア リ ル イ ヤ 。

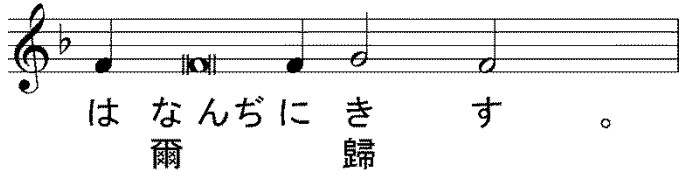
【 福音經 (エヴァンゲリオン) イオアン福音書1章1～17節 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{でん} ^{せいふくいんけい} ^{よみ} イオアン傳の聖福音經の讀、



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 し 光 榮



はなんぢにきす。
爾 歸

代禱) ^{つつし} ^き 謹みて聽くべし、 (※可能ならば、複数の言語で読む習慣がある。)

誦經) ^{はじめ} ^{ことばあ} ^{ことば} ^{かみ} ^{とも} ^あ ^{ことば} ^{すなはちかみ} ^こ ^{ことば} ^{はじめ} ^{かみ} ^{とも} 太初に言有り、言は神と共に在り、言は即神なり。是の言は太初に神と共に

^あ ^{ばんぶつ} ^{かれ} ^よ ^{つく} ^{およ} ^{つく} ^{もの} ^{いつ} ^{かれ} ^よ ^{つく} 在り。萬物は彼に由りて造られたり、凡そ造られたる者には、一も彼に由らずして造ら

^な ^{かれ} ^{うち} ^{いのちあ} ^{いのち} ^{ひと} ^{ひかり} ^{ひかり} ^{くらやみ} ^て ^{くらやみ} ^{これ} ^お ^お れしは無し。彼の中に生命有り、生命は人の光なり。光は暗に照り、暗は之を蔽

^{かみ} ^{つかわ} ^{ひと} ^{そのな} ^{かれ} ^{しょう} ^{ため} ^{きた} ^{ひかり} わざりき。神より遣されし人あり、其名はイオアンなり。彼は證の爲に來れり、光の

^{こと} ^{しょう} ^{しゅうじん} ^{かれ} ^よ ^{しん} ^{ため} ^{かれ} ^{ひかり} ^{あら} ^{すなわちひかり} 事を證し、衆人をして彼に因りて信ぜしめん爲なり。彼は光に非ず、乃光の

^{こと} ^{しょう} ^{ため} ^{つかわ} ^{まこと} ^{ひかり} ^{およ} ^よ ^{きた} ^{ひと} ^{てら} ^{もの} ^{かれ} ^{かつ} 事を證せん爲に遣されたり。眞の光あり、凡そ世に來る人を照す者なり。彼嘗

^よ ^あ ^よ ^{かれ} ^よ ^{つく} ^{しこう} ^よ ^{かれ} ^し ^{おのれ} ^{ぞく} ^{もの} ^{きた} て世に在り、世は彼に由りて造られたり、而して世は彼を知らざりき。己に屬する者に來

^{しこう} ^{おのれ} ^{ぞく} ^{もの} ^{かれ} ^う ^{かれ} ^う ^{そのな} ^{しん} ^{もの} ^{かれ} ^{かみ} れり、而して己に屬する者は彼を受けざりき。彼を受け、其名を信ずる者には、彼神

^こ ^な ^{けん} ^{たま} ^こ ^{けつき} ^よ ^{あら} ^{じょうよく} ^よ ^{あら} ^{じんよく} ^よ ^{あら} の子と爲る權を賜えり。是れ血氣に由るに非ず、情欲に由るに非ず、人欲に由るに非ず、

^{すなわちかみ} ^よ ^{うま} ^{もの} ^{ことば} ^{にくたい} ^な ^{われら} ^{うち} ^を ^{おんちよう} 乃神に由りて生れし者なり。言は肉體と成りて、我等の中に居りたり、恩寵と

^{しんじつ} ^み ^{われら} ^{かれ} ^{こうえい} ^み ^{ちち} ^{どくせいし} ^{ごと} ^{こうえい} 眞實とに満てられたり。我等彼の光榮を見たり、父の獨生子の如き光榮なり。イオアン

かれ こと しょう よ い わ かつ われ のち きた もの われ さき な けだし
彼の事を證し、呼びて曰えり、我が嘗て、我の後に來る者は、我の前と爲れり、蓋

そのもとわれ さき もの い すなはちこ ひと かれ じゅうまん われらみなおんちよう
其本我より先なる者なりと言いしは、即斯の人なり。彼の充満より我等皆恩寵

うえ おんちよう う けだしりっぽう よ さづ おんちよう しんじつ
の上に恩寵を受けたり。蓋律法はモイセイに由りて授けられ、恩寵と眞實とはイ

ススハリストスに由りて來れり。

(比較用 口語訳) 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は初めに神と共にあった。すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。ここにひとりの人があつて、神からつかわされていた。その名をヨハネと言った。この人はあかしのためにきた。光についてあかしをし、彼によってすべての人が信じるためである。彼は光ではなく、ただ、光についてあかしをするためにきたのである。すべての人を照すまことの光があつて、世にきた。彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった。しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのであるそれらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であつて、めぐみとまこととに満ちていた。ヨハネは彼についてあかしをし、叫んで言った、『わたしのあとに來るかたは、わたしよりもすぐれたかたである。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この人のことである。わたしたちすべての者は、その満ち満ちているものの中から受けて、めぐみにめぐみを加えられた。律法はモーセをとおして与えられ、めぐみとまこととは、イエス・キリストをとおしてきたのである。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 し、 光 榮

はなんぢにきす。
爾 歸 す。

※代式祈禱③ へ

【 コンスタンチヌーポリの大主教聖金口イオアンの復活祭説教 】

(パスハにはこの説教を読むのが伝統になっている)

たれ けいけん かみ あい もの こ うるわ まつり たの
誰か敬虔にして神を愛する者ならば、斯の美しき祭を楽しむべし。

たれ ぜんち ぼく よろこ そのしゅ よろこび い
誰か善智の僕ならば、喜びて其主の歡樂に入るべし。

たれ ものいみ ろう いまディナリ と たれ だいいちじ こうさく
誰か齋して勞せしならば、今銀一枚を取るべし。誰か第一時より工作せしならば、

こんにちしとう あたい う たれ だいさんじ のち き かんしゃ いわ たれ
今日至當なる値を受くべし。誰か第三時の後に來たりしならば、感謝して祝うべし。誰

だいろくじ す いた いささか おも わずら けだしごう うしな ところ
か第六時を過ぎて至りしならば、聊も思い煩うべからず、蓋毫も失う所なし。

たれ だいくじ おそな すこ うたが つ たれ ただだいじゅういちじ
誰か第九時にまで遅わりしならば、少しも疑わずして就くべし。誰か唯第十一時にの

いた そのおそな おそ
み至りしならば、其遅わりたるを畏るべからず。

けだししゅさい かんたい すえ もの だいいち もの ごと う だいじゅういちじ き もの
蓋主宰は寛大にして、末の者を第一の者の如くに接け、第十一時に來たりし者

だいいちじ こうさく もの ごと いこ のち もの あわれ さき もの おもんばか
を第一時より工作せし者の如くに息わしむ。後の者をも恤み、先の者をも慮る、

かれ あた これ たま おこない う こころざし よみ てがら うやま のぞみ ほ
彼にも予え、此にも賜う。行をも受け、志をも嘉す。功をも敬い、望をも賞

む。

ゆえ みなわ しゅ よろこび い だいいち もの だいに もの むくい う と ものおよ まず
故に皆我が主の歡樂に入れ、第一の者も第二の者も報賞を受けよ。富める者及び貧

もの あいとも いわ せつせい ものおよ たいだ もの ひ とうと ものいみ ものおよ ものいみ
しき者は相共に祝え。節制の者及び怠惰の者は日を尊べ。齋せし者及び齋せ

もの こんにちたの
ざりし者は今日楽しむ。

えん ゆたか みなくら あ こうし おおい ひとり う い みなしん
筵は豊盛なり、皆食いて飽くべし。犢は肥大なり、一人も飢えて出ずべからず。皆信の

えん たの みなじあい とみ う なんびと ひんきゅう うれ けだしこうきょう くに
筵を楽しめ、皆慈愛の富を享けよ。何人も貧窮を憂うべからず、蓋公共の國は

あらわ なんびと つみ ため な けだしはか ゆるし かがや
現れたり。何人も罪の爲に泣くべからず、蓋墓より赦免は輝けり。

なんびと し おそ けだしきゅうせいしゅ し われら と かれ これ かの これ
何人も死を畏るべからず、蓋救世主の死は我等を釈きたり。彼は此に圍まれて之を

け かれ ちごく くだ ちごく とりこ かれ そのにくたい さわ もの かな
滅せり。彼は地獄に降りて地獄を虜にせり。彼は其肉體に捫りし者を悲しませたり。

これ よち こ こと よ い ちごく なんぢ しも むか かな
之を預知せしイサイヤも此の事と呼びて言う、地獄は爾を下に迎えて悲しめりと。

かな けだしむな かな けだしはづか かな けだしころ
悲しめり、蓋空しくせられたり。悲しめり、蓋辱しめられたり。悲しめり、蓋殺

されたり。悲しめり、蓋 仆されたり。悲しめり、蓋 縛られたり。肉身を受けて、神に著

けり。地を受けて、天に遇えり。見たる所を取りて、見ざる所に陥れり。

死よ、爾の刺は安にか在る、地獄よ、爾の勝は安にか在る。

ハリストス復活して、爾は墜ちたり。ハリストス復活して、悪魔は仆れたり。ハリスト

ス復活して、天使等は歡ぶ。ハリストス復活して、生命は凱旋す。ハリストス復活して、

死者は一も墓に在らず、蓋ハリストス死より復活して、死せし者の中に初實と爲れり。

彼に光榮及び權柄は世世に歸す、「アミン」。

(現代語訳)

さあ、心から神を愛する人々よ

この美しく光り輝く祭を楽しもう

さあ、賢いしもべたちよ

それぞれの喜びを胸にたずさえ、主ご自身の歡喜と一つになろう

長い齋(ものいみ)をしっかりと守った者は

さあ銀一枚(一デナリ)を受け取りなさい

(あなたが長い大齋の最初から、そう、あのぶどう園の労働者たちのように)

第一時から働いたなら、今日、胸を張って当然の報酬を受け取りなさい

第三時を過ぎてから来たのなら、感謝して(その報酬を)喜びなさい

第六時をまわってから来たのでも、何の心配もいらぬ

同じだけ受け取れるのだから

第九時になってようやく来たとしても

何をとまどっている…、さあ、この食卓につきなさい

とうとう第十一時になるまで重い腰を上げなかったあなたも

遅れたからといって、何も怖がることはない

そうなのだ、この宴会の主人は実に寛大だ

最後の者も最初の者と同じように迎えてくれる

第十一時に来た者も、第一時から働いた者と同じように憩わせてくれる

後から来た者も憐み、最初から来た者も忘れはしない

彼にも与え、これにも賜われる

行いも受け入れてくれ、志も祝福して下さる

功績(てがら)も認めてくれ、望みも励まして下さる

さあ、だから、この主ご自身の歡喜(よろこび)に入ろうではないか

第一の者も第二の者も、報酬を受け取りなさい

富める者も貧しい者も、共に祝いなさい

節制した者も怠けた者も、この日を喜びなさい

齋した者も齋しなかった者も、さあ、いま楽しみなさい

この宴（うたげ）は溢れこぼれんばかりに豊かだ
さあみんな、飽きるほど食べなさい 子牛はまるまる肥えているではないか
この宴から空腹で帰ってゆく者が、一人でもいてはいけない
さあみんな、この信仰の宴を楽しみなさい
この慈しみの富をうけなさい
誰も、もう、貧しさを憂いてはいけない
王国が打ち立てられ、すべての人々が招かれているのだから

誰も、もう、罪のために泣いてはいけない
主の墓から赦しが輝き出たのだから
誰も、もう、死を恐れてはならない
救世主（ハリストス）の死が私たちを解放したのだから

彼（ハリストス）は、死に包囲されたが、逆に死を討ち滅ぼした
彼は、地獄に降って、地獄をとりこにした
彼は、そのお体に触れた地獄を悔やませた 預言者イサイヤが言った通りだ
「地獄はあなたを組み敷いてしまってから、悔いて悲しんだ」と

地獄は悲しんだ。そこが空っぽになってしまったから
地獄は悲しんだ。恥をかかされてしまったから
地獄は悲しんだ。葬り去られてしまったから
地獄は悲しんだ。打ち倒されてしまったから
地獄は悲しんだ。縛られてしまったから

地獄は主の肉体を受け取って、神に向かい合う羽目になってしまった
地獄は地上に生きた者（ハリストス）を受け取って、天国に出くわしてしまった
地獄は目に見える肉体を受け取って、見えざる者の力に圧倒されてしまった

死よ、おまえの刺（はり）はどこにいつてしまったのか？
地獄よ、おまえの勝利はどこへいつてしまったのか？

ハリストス復活して、おまえは失墜した
ハリストス復活して、悪魔は倒された
ハリストス復活して、天使らは歓喜する
ハリストス復活して、「いのち」は凱旋する
ハリストス復活して、墓の中にはもう死者はいない
ハリストスが死より復活して、死者たちの復活の初穂となったから！

光栄及び権柄は、世世に主に帰す アミン。